



和田事務局長、9年3ヶ月おつかれさまでした

室戸ジオパークは地域一丸となって、みんなが理想とする地域づくりを推進していく事業で、主役は地域住民（市民）になります。ジオパークの事業内容も市民で話し合い、決定しています。わたしたち室戸ジオパーク推進協議会事務局の職員（行政職員・専門員など）は、地域の思いを実現したり動かしたりするためのサポーターです。もちろん「こんなことしてみない？」という提案もしています。

そんな事務局員をまとめる立場として、「事務局長」という役職があります。室戸では、市役所職員である和田庫治（現・人権啓発課課長）さんが、2011年のジオパーク世界認定の年から約9年間（!!!）、事務局長を務めていました。和田事務局長は世界認定の時から今日までずっと、わたしたちと一緒に走り続けてくれました。この7月に惜しまれながらも退任された和田事務局長に感謝と尊敬の気持ちを込めて、今回の特大号をお送りします。「事務局長はどんな仕事をしているのか」ということについても、知ることができる内容になっています。



2013年、懐かしの長袖ポロを着て。

事務局長の資質と役割ってなに？

【資質1：多様な考え方を受け入れ、柔軟な対応ができる人】

ジオパーク事業は、先にのべたように主役は地域住民です。そして普段の業務では、研究の世界で生きてきた時間が長く、社会経験が豊富でない傾向にある専門員と話し合いながら仕事を進めないといけません。さらに室戸がジオパーク事業を始めた時代は、まだまだ参考にできる地域は少なく、手探りで全く新しい地域発展の形を考えていく必要がありました。そうした中で出てくる意見は長らく「行政マン」として勤務してきた立場からすると、「それは行政的には無理」と言いたくなるはずです。しかし和田事務局長は、どんな立場にある人のどんな意見でも、受け入れようとする大きな姿勢がありました。口グセは「責任はオラが取るき、したいようにしてみてん」でした。

【資質2：知的好奇心が強く、なんでもやろうと思う人】

「ジオパーク＝観光」というイメージを持つ人もいるかもしれませんが、それは少し違います。ジオパークは「地域に残る宝（地質遺産・自然）」を守りながら、それを教育や観光業で活用することで地域住民のふるさとの対する考え方を豊かなものにし、地域が経済的に持続的に発展していく」ためのものです。そのアイデアは、若干哲学的な考え方も含んでいます。

2011年に世界ジオパークになった室戸は、国際的なジオパークのネットワーク活動に貢献する責務もあり、海外ジオパークとも交流する機会は多いです。そういう中でも、「まあできるかわからんけど、やってみるか!」と思える心意気はとても大切です。

【資質3：誰に対しても公平な人】

本当に多くの人と関わりながら仕事を進めていく必要があります。他地域の行政職員・専門員、研究機関の研究者、地域ガイドさん、民間の多種多様な業種の方。肩書きや経歴で人を判断せず、どんな人の意見でも「まずは聞いてみる」という姿勢がないと、ジオパークはうまくいきません。



ライフワークでもある「土佐勇魚太鼓」。ジオパークの審査時に披露してくれたりしました。

こんなことしてます、事務局長。

【地元を愛し、盛り上げる】

吉良川地区で毎年2月中旬に開催されている「吉良川町並み飛脚レース」。地域イベントを盛り上げるために「妖怪人間」のコスプレをして飛脚レースに参加しました（写真左：2013年2月）。

吉良川の神祭で神輿もかつぎます。吉良川出身の和田事務局長にとって、神祭は大切な神事です。当時の専門員2名と一緒に（写真右：2013年10月）。



【海外で室戸ジオパークをPRする】

室戸はユネスコ世界ジオパークに認定されています。室戸以外にも、世界44カ国・161地域にユネスコ世界ジオパークはあります。海外のジオパークに対しても、室戸ジオパークの経験や知識を共有するなどして、世界中のジオパークがより良く発展できるように務める必要があります。ちなみにジオパークの公用語は今のところ英語です。そのため、英語でやりとりをする場面は多くなります。



2018年10月
ランカウイにて

和田事務局長は英語をある程度話すことができるので、簡単な会話なら通訳なしでも交流することができます。世界のジオパークに関わるほとんどの人が、英語のネイティブ話者ではありません。みんな間違いだらけの英語であっても積極的に情報共有したり、新しい交流プロジェクトについて計画したりします。

事務局長はどんな時でも「海外との交流!? そんなこと無理!」と思わない「まあやってみよう。なんとかなる」というドーンと構えた大きな気持ちを持つ必要があります。



2019年6月
ユネスコ審査員に南海トラフを解説中

【ジオパークセンターを盛り上げる】

この左の素敵なクリスマスツリーはなんと和田事務局長の手作りです。日曜大工が得意な事務局長が、センターを彩るために作ってくれました。クリスマスが近づいたある日曜日には、和田サンタとして当時のセンタースタッフと一緒にお客様をおもてなししました。

子どもたちも大興奮で、普段とは一味違うジオパークセンターを楽しんでくれていました。センターでは季節ごとにいろんなイベントを計画しています。



皆さんこんにちは。室戸ジオパーク推進協議会の事務局長を務めさせていただきました和田庫治と申します。2011年4月に着任した事務局長役は、この7月をもって卒業となりました。皆様方には、9年余りに渡り室戸ジオパーク活動を一緒になって盛り上げていただいたことに心より感謝申し上げます。

思い起こせば2011年4月、市のジオパーク推進課長として異動があり、ジオパークという未知の世界に飛び込みました。着任早々に世界ジオパーク認定の現地審査が迫っていて、大急ぎで体制を整え審査に突入しました。現地審査の期間中は、審査員のパトリック・マッキーバー氏の言動一つひとつに手ごたえを感じたことや、想定外の出来事から身も心も凍るような思いがした記憶があります。そして2か月後には興奮の世界認定の発表会、朝4時の市役所第一会議室には大勢の市民の皆さんが集ってくれました。発表の瞬間、会場は歓喜の声にあふれ、お互いに喜び合ったことは今も忘れることができません。

そしてこの9年間、たくさんの皆さんと出会いがあり、いろんなアイデアやお力をいただきました。いつも応援してくれたジオパーク推進協議会の会員さんや、私を助けてくれる一方で悩ませてくれた個性豊かなジオパーク専門員の面々、地域で頑張るジオガイドさんや学校の先生方、また2012年に室戸で開催した日本ジオパーク全国大会の時にお手伝い頂いた市民の皆さん、2015年、2019年の再認定審査の際に協力いただいた市民や関係者の皆さんなど、こうして室戸を盛り上げようとがんばっている皆さんとの出会いは、ジオパークに携わっていなければ経験できなかった貴重な思い出です。

この度、ジオパークの事務局長という立場は離れますが、今後は室戸ジオパークの一員として皆さんと一緒にこの室戸を盛り上げていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。本当にありがとうございました。



室戸市の皆さん、こんにちは。7月8日より、室戸ジオパーク推進協議会の事務局長に就任しました、おおにしとある大西亨と申します。

長年事務局長を務めてこられた和田大先輩は、室戸市役所では誰もが認める「ミスタージオパーク」でした。一方の私は、ジオパークに携わった経験が乏しいこともあり、就任以降、その重責に身の細る思いです。さて、就任後に「室戸ジオパークの財産は人だ」について考えてみました。ボランティアガイドの皆さんや、室戸ジオパークを学んでいる学生さんをはじめ、漁業や農業に携わっている方々、伝統行事に携わっている方…協力や支援を頂いていることはもちろんですが、皆さんの「誇り」が「室戸ジオパーク」を輝かせている。そういった皆さんのおかげで前述の評価がされたのだと、私なりに解釈しました。



事務局長の交代により、関係者の方々にはご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、室戸の「人」に支えられていただきながら、頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

日本国内のジオパークのほとんどは、室戸と同じ推進協議会のような運営のための事務局を設立し、地方自治体と一体となりジオパーク事業を進めています。それまで地方自治体職員の「行政マン」として仕事をしてきた方たちにとって、「行政職員の常識」などを知らない専門員や地域ガイド団体らとともに、全く新しい地域発展のプロジェクトに順応することは大変だったと思います。しかしジオパーク活動は「行政主導」の活動であってはならず、常に地域主導です。

思えば室戸の歴代専門員は、行政のやり方など全くわからないまま、好き勝手なことを言い、動いてきました（もちろん「報連相」はします）。その発言や行動は、「地域をよくするために」という思いからくるもの。和田事務局長も当初は、「こっちの苦勞も知らんと好き勝手に言うて！」と思っていたそうです。しかし「専門員の知識の深さには敵わん」と次第に思うようになり、「専門員もガイドさんも楽しそうやな。ジオパークってワクワクするものかもしれん」という気持ちになっていったとか。

日本の他の地域でも、事務局長は行政職員の課長職等に就いている方が担うことが多いのですが、「前例がないから」という理由で素晴らしいアイデアが却下されている現状などを聞きます。一緒に働いている人（部下）を、「ちょっと信じて、ちょっと任せてみる」って、案外難しいことなんだと思います。

「まゝおんしらが思うようにやってん。おらが責任取るし、なんぼでも謝っちゃう」は、和田事務局長の口癖でした。専門員は自由に動き、地域に入り、地域住民のサポーターとして活動すべきだと、分かっていてくれたからです。迷惑も散々おかけしましたし、困らせてきました。しかし自由な動きが担保されていたからこそ、地域のみなさんが「ワクワク」を感じ取り、主体的に活動していくことで、「室戸ジオパークの財産は人だ」と評価されるジオパークになっていきました。世界認定から10年が経とうとする今、地域の「ジオパークフィーバー」は落ち着いてきました。ワクワクできるプロジェクトを発進していくので、一緒に活動していきましょう。



特別号はどうやった？ここから下はお知らせやき！



「都呂津波避難シェルターガイド養成講座」を開催予定！

【日時】8月22日（土）13:30～17:00

【参加費】無料

【定員】10名

【申込】室戸世界ジオパークセンター（担当:とおた遠枝）
TEL: 0887-23-1610
Email: info@muroto-geo.jp
（※応募締切は21日17:00）

【集合】室戸世界ジオパークセンター

【主催】室戸ジオパーク推進協議会

【協力】室戸市防災対策課

【講座内容】

1. ジオパーク、そしてジオパークと防災
講師：高橋唯（地質専門員）
2. 室戸市の防災計画、津波避難シェルターについて
講師：室戸市防災対策課
3. 津波避難シェルター見学体験
講座後、実際にガイドとして活動して下さる方を対象に、ガイド練習会を開催します。

室戸ジオでは、自然災害との向き合い方を考える学校向けの防災学習プログラムを実施。その中で訪れる佐喜浜の都呂津波避難シェルターでのガイド養成のための講座を開催します。お気軽にお問い合わせください！

「室戸ジオパークだより」へのご意見・ご感想、ご質問などなど、どんどんお気軽に下記連絡先までお問い合わせください。「こんな情報あるよ！」「こんな情報を掲載して」ということも、お待ちしております。

【発行】室戸ジオパーク推進協議会 (0887-22-5161)

Email: info@muroto-geo.jp

〒781-7101 高知県室戸市室戸岬町 1810-2（担当：海老川）

